

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

○「真の学力」の醸成

- ①基礎学力の確実な定着
- ②生徒一人ひとりに応じた真の学力を育む学習指導の工夫・改善
- ③将来の生き方や職業、社会の動きと関連づけ、自ら進路を切り開く基盤をつくる授業
- ④「よい授業」を活用した授業改善

＜本年度の学力向上策＞

【本校研究主題】 「確かな学力を身に付けた生徒の育成」
～各教科におけるアクティブラーニングの推進～

本校では上記の研究主題を受けて各教科でテーマを設定し、教科研修を進めることで、学力向上基本方針である「真の学力の醸成」を図りたいと考えている。

具体的には、①全教員が学習指導案を作成し授業を公開する、②教科の枠を超えて互いに授業を参観し協議の場をもつ、③よい授業アンケートや市学力テストの結果を活用する、④小・中一貫教育の視点を大切に、9年間の見通しをもった指導についても考慮していく、の4点を具体策として実施しながら、学力向上、また研究主題の達成に努めていきたい。

教科	テーマ（平成30年度）
国語科	さまざまな表現活動を通し、真の伝え合う力を磨く
数学科	生徒の主体的な活動を促す学習指導の工夫
社会科	互いに学び合う、高め合う授業形態の追究
理科	一人からグループの学びへ発展する学習活動と指導方法の工夫
音楽科	生徒の良さや可能性を生かし、一人ひとりが輝く活動的・協働的な学びの実現を目指して
美術科	授業の学びを実感する学びへ
技術・家庭科	「課題解決の方法を発見する力」を養う授業の展開
保健体育科	仲間と意見を出し合い、共有する学習活動の工夫
グローバル・スタディ科	生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする授業の工夫
特別支援学級	互いを認め合い、他者との関わりを大切にする生徒の育成

＜本年度の振り返り＞ ○成果と△課題

【国語科】

- ①教科研究テーマの実現 … ○単元ごとに様々な表現活動を設定し、繰り返し取り組ませるほか、学期に1回はスピーチを行うことを実践してきたので、生徒の「表現すること」「伝えること」への抵抗はほぼなく、楽しんで活動している。また、「伝える」うえでの基本が身につけている生徒が多い。△表現を工夫するあまり、内容が深まることなく学習を終えてしまう生徒もいる。「真の伝え合う力」を身につけさせる上で内容の深まりも合わせて育てたい。

②アクティブラーニングの推進 … ○全教員アクティブラーニングの手法を取り入れ、主体的・対話的で深い学びにしようと努力できたと思う。よい授業アンケートでも「アクティブラーニング」の項目は平均 16.8 ポイントであった。○国語科「アクティブラーニング」型授業について、主に【グループ（3～4人）で学習（調べ含む）を深める・話し合う⇒発表する（PCを用いてプレゼンテーション、TV番組風にレポート、紙芝居で発表等、様々な形で）】を全学年多くの単元で繰り返し行ったため、生徒も慣れ親しんで意欲的に学習に取り組む姿が見られた。△今後の課題は①グループ活動での「ねらい」を明確にすること、②ただの型で終わらないようアクティブラーニングを深めていくこと、③個とグループの使い分け（順序）を意図に基づき明確に行うことである。

○市学習状況調査では、1年は全体的に無回答率が低く、特に漢字の回答率、正答率が高かった。「主述の関係」「歴史的仮名遣い」等基本事項の正答率も高く定着している。また、読み取り、心理解の正答率は非常に高い。2年は全体的に高い平均点を取れているが、特に「言語」に関する設問の正答率が高かったことから、知識事項が身につけていると言える。

【数学科】

○「基礎力アップ」は成果をあげている。市の学力検査などでは、大問1の正答率が非常に高い。また市学習状況調査においても、1年・2年共に、全分野において高い平均点を取ることができている。

○3年間の基礎学習の積み重ねを実感することができた。

△アクティブ・ラーニングに関して、考えられるできる限りの方法で実施したが、実施の数は少なく、アクティブ・ラーニングを有効的に活用できる場面や形態、手法に更なる研究が必要である。

【社会科】

○市学習状況調査では、全体的に歴史分野がよかった。また、年代の並び替えの解答率が高いことから、1つひとつの知識の定着ができていと考えられる。記述の解答率も高かった。

○授業規律の確立

→生徒の基礎力アップにもつながると考えられる。

○時事を意図的に扱うことによる、社会的事象への関心の高まり

→その時に扱っている学習内容と絡めることで、より効果的に関心を高めることができると考えられる。

△知識の習得とアクティブラーニングのバランス→単元ごとの振り返りに、話し合いなどの活動を取り入れていきたい。

△地理的分野の「地図」「資料」からの読み取りをやはり重点的に行う必要がある。表現の仕方、記述の仕方、読み取るポイントなど、より多くの視点をもち取り組ませる。

【理科】

○市学習状況調査では、1年は「化学」の正答率が高かった。また「活用問題」の正答率も高く、無回答率も低いことから、何かしらの自分の考えを回答することができていると言える。2年は「生物」や「物理」の正答率が高かった。

○生徒同士の意見交換を活発に行った結果、レポート作成において自分なりの考察をしっかりと書くことができる生徒が多くなった。

○話し合う機会も多いため、理解の深い生徒がつまづいている生徒に対して説明するような場面も見られるようになった。

△考察をたくさん書くことはできるが、要点をきいづつ文章を書くことができない。

△話し合いを増やした結果、基礎的な学習や演習に充てる時間が少なくなった。

【音楽科】

○お互いの演奏を見合うことで、目指す方向が明確になり、互いの模倣をすることで技能が高まった。表現の工夫については、意見を出し合い、試しながらグループの目指す表現の工夫をすることができ、生徒は満足することができた。

△実技の技能に関しては、まだ、個人差があるので、生徒の意欲を引き出す授業を目指すことが課題点である。また、リコーダーに関しては、得意不得意の思いがはっきりしているので、毎時間少しづつ取り組む必要がある。

【美術科】

○1年生は、美術の基礎基本を定着させるため、コラージュやドリップング、マーブリング技法を中心に授業を行った。単に技法の習得を目指すのではなく、より美術を身近に感じさせるため、それらの技法を活かし「缶バッジ」や「スケジュール帳」の表紙を制作させ、授業の学びを生活につなげるようにアップデートした。今後は生徒たちの多様な表現を可能にするため、材料や道具、資料を充実させ、創造的な環境作りを目指す。

△今回制作したドミノは厚みが薄かったため、時間内にドミノを完成させる班が少なかった。次年度は、もう少し厚みのある木材でドミノを制作させ、一つの作品を完成させる喜びや達成感を味わわせ、協同的な学びを実感させたい。

【技術・家庭科】

○作業ごとに、意見交換やまとめ・振り返りを行うことで、学習内容の定着をより深く図ることができた。(技術)

○課題解決に向けて自分で考え、行動することができる生徒が増えた。(家庭)

△学習したことが、生活の中でも生かせる場面を多く設定する。(技術)

△自分で考えたことを周囲の生徒と共有する機会を多く設ける必要がある。(家庭)

【保健体育科】

○ペア学習やグループワークを多く取り入れることで、アドバイスをし合う場づくり(雰囲気づくり)ができています。また、運動の仕方を明確に提示することにより、運動の仕組みを理解し共有することができた。子どもたちの意欲の向上のために、他学年と体育的交流の場を持つことにより、意欲の向上につなげることができた。

△グループワークの内容をもっと深めて提示していくことで、より内容の濃いグループワークができるのではないかと考えた。また、全員が話し合いに参加できる場づくりの設定が課題である。

【G・S科】

○市学習状況調査では、中1、中2ともに全ての項目において高い平均点を取ることができている。1年では、設問1(6)の正答率が高いことから、音声で疑問詞をしっかりと認識していることが分かる。また2年の設問9の条件英作文では、無回答率が低かった。「書こう」という意欲があることが分かる。また設問10の回答率が非常に高く、基本的な問答はできていることが分かる。

○市のカリキュラムに沿って、G・Sカリキュラムを進めることで、3年間を見通した授業が進められた。それによって、必要な語彙のインプットの絶対量を増やすことができた。

○生徒がアウトプットするために、課題を明確にしたペアワークやグループワーク活動の工夫を行うことができた。

○生徒が主体的に英語でコミュニケーションを取ろうとしている。その際、英語は単に道具であって、話す内容を事前に調査したり、自分の考えをまとめたりすることが必然である気がついた。その結果、人に伝えやすい工夫(絵、イラスト、グラフなどの資料など)がなされるようになった。

△新プログラムを通して、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。さらに、正しく英語を表現することが重要であると考え。しかし、学年が上がるにつれて、英語でコミュニケーションを取ることが難しくなる。改めて「基礎、基本の定着」を図る授業が必要である。そこで、新出単語や英文を繰り返し学習する時間の確保や新出言語材料が定着する授業の工夫が今後の重要課題であると考え。

△小学校の授業と同様に、「本時の振り返り(自分自身や他者の評価を含む)」の時間が確保することも課題である。

【特別支援学級】

○発表の際に相手の立場に立った発表の仕方や説明の内容など、わかりやすく伝えるための伝え方を学べた。また、他の教科の領域と関わらせながら取り組むことができた。

△相手の立場に立って物事を考えることは、繰り返し理解しながら進めていく必要があると考えた。また、場面に応じた態度や発言がふさわしくないこともあり、その都度指導していく必要がある。